

# 競技かるた部活動報告～その52～かるた甲子園報告 ver.0

2018.07.27

競技かるた部は、本日ついに念願であった滋賀県近江神宮入りを果たしました。近江神宮は言わずと知れたかるたの聖地、明日から始まるかるた甲子園の舞台です。本校かるた部の全国大会出場は、1年ぶり2回目となります。



かるた部一行は、まずは開会式の会場になる近江神宮本殿を参拝し、全国大会での活躍を祈願しました。



その後、決戦の場となる勸学館に移動。そこで予選トーナメント戦の組み合わせを決める抽選会に臨みました。高3部長の吉田がくじを引き、1回戦の相手が決定しました。1回戦の相手は、沖縄県代表の宮古高校。沖縄の代表と対戦。う～ん全国大会って感じしませんか？

決勝トーナメントに進出するためには、この宮古高校戦を含め、3連勝しなければなりません。

海城が入ったBブロックは以下の8校で構成されます。

A	1	京都-洛南	5	山口-小野田
	2	島根-益田	6	熊本-鹿本
	3	群馬-東京農大第二	7	石川-金沢泉丘
	4	長野-諏訪清陵		
B	8	岩手-一関第一	12	秋田-大館鳳鳴
	9	和歌山-智辯学園和歌山	13	千葉-成田
	10	東京-海城	14	福岡-福岡大学附属大濠
	11	沖縄-宮古	15	大阪-大阪市立南
C	16	米国-ポストン日本語学校	20	宮城-宮城第一
	17	栃木-宇都宮	21	岡山-倉敷青陵
	18	愛媛-松山東	22	香川-高松
	19	静岡-浜松西	23	兵庫-龍野
D	24	千葉-鎌ヶ谷	28	神奈川-藤沢西
	25	茨城-水城	29	福井-若狭
	26	長崎-五島	30	岐阜-鸺谷

初出場した一昨年は、準優勝した学校に2回戦で惜敗し、決勝トーナメントに進むことができなかっただけに、目標はまずはこの決勝トーナメント進出となるでしょうか。生徒たちはライバルに臆することなく、明日の団体戦に闘志を燃やしています。



持てる力を存分に発揮し、勝利を重ねてくれることを信じています。明日からの競技かるた部の活躍にぜひご期待ください。応援よろしく申し上げます。

# かるた甲子園報告 ver.1 祝 全国ベスト4

2018.07.30

7/28（土）、ついにかるた甲子園こと高校選手権団体戦の決戦の火蓋が切って落とされました。

かるた甲子園では、近年の参加校の増加に伴い近江神宮のみで全ての試合を行うことはできなくなっており、近隣の施設なども試合会場として使用中、海城のあったBブロックは運良く

「近江神宮勸学館、浦安の間」という、名人戦・クイーン戦も行われるかるたの聖地で試合に臨めることになりました。



初戦の相手、沖縄代表宮古高校を5-0で完封、二回戦は岩手県代表一関第一高校、三回戦、千葉県代表成田高校をそれぞれ4-1で降し、海城高校は決勝トーナメントに駒を進めることができました。中でも活躍が目立ったのは五将橋本匠（C級初段高1）で、格上の選手を相手に持ち味のクリーンなかるたをきっちり取り切り、チームを支えました。



ここまでも、結果だけを見ると危なげなく勝利したように見えるもののやはり全国の舞台は決して楽なものではないと思わせられる試合ばかりでしたが、ここからはまさに死闘と言えるような戦いになりました。

ベスト8が出揃った決勝トーナメント第一戦は、熊本県代表の鹿本高校。メンバーのうち、A級四段が3人、あとは皆B級という、戦力で勝るチームです。

しかも、こちらの主将である林峻平（A級四段高2）、副将伊藤知隆（B級二段高3）が鹿本の四将五将と当たるというオーダーになり、五試合のうち三本取って勝つには、残りの三人、三将吉田匠（B級二段高3）、四将山城颯太郎（C級初段高2）、五将橋本匠（C級初段高1）の誰かがA級選手を相手に一勝を挙げなければならないという、かなり厳しい条件となりました。

そして、ここで番狂わせを起こしたのは、四将山城でした。鹿本のA級の副将を相手にどんなに取られても諦めずに粘り続け、ギリギリの最後には逆転勝利を果たし、海城の準決勝進出への立役者となりました。

準決勝の相手は滋賀県代表、膳所高校。実は、顧問はこの膳所高校かるた班（膳所では部活動を班活動と呼ぶのです）の出身で、個人的には海城 vs 膳所は念願の対決でした。昨年度高校選手権

三位、A級大会での優勝経験を持つ超高校級エースを擁する膳所高校に、海城は2-3と善戦いたしましたが、一步及ばずここで今日初めての敗北を喫しました。勝ち星は、主将林と、ここでも四将山城が格上を相手にひっくり返しての貴重な一勝でした。

三位決定戦は、大分県代表の中津南高校となりました。中津南と言えば、一昨年の準優勝校であり、海城が二回戦で対戦し、たった一枚の差で敗退した、因縁の相手です。先輩達の雪辱戦、とされたのですが、ここでも2-3で惜しくも負けてしまい、海城高校の結果は四位となりました。

中津南戦で勝ちを挙げたのは、主将林と、この日初めて起用された、六将望月隆太（C級初段高1）でした。この春にE級から一気にC級に昇級したばかりの新人エースで、この大事な場面できっちり自分の役割を果たしました。



前回、東京都予選の様子をお伝えしたときに、「今年の海城は決して強いチームではない」と書きました。今回の大会では、主力選手である高2 中山雄貴が海外研修中で参加できなかったため、さらに少ない戦力でのかるた甲子園への挑戦でした。

にも関わらず、全国四位という成績を残せたのは、この短期間に彼らがどれほどの努力を重ねた

のかということの証左であり、また、「自分が勝たなければチームが負ける」という重圧に潰されず、むしろ力に変える精神力と、そして、団体戦でこそ強くなれる信頼感の成し得た結果であったと思います。

猛暑の中、会場から溢れる観客、テレビカメラも入るような不慣れな環境で、朝から夜までの六回戦を集中を切らさずに戦い抜いた彼らは本当に立派でした。



今回の六戦を全勝で終えた高2主将の林は、「自分が勝てたのは、高3の二人が精神的に支えてくれたから。二人がいたからこそ、のびのび取って勝つことに集中できた。」と語りました。この大会をもって、高3の伊藤と吉田は引退となります。団体戦の主力選手としてはもちろんのこと、それだけではなく、その暖かく後輩思いの人柄で、本当にたくさんのものをかるた部に残してくれた二人を心から賞賛したいと思います。



今回の全国優勝は、決勝で膳所高校を降した浦和明の星高校、初優勝です。

私たちも、全国四位という結果に満足することなく、来年は全国優勝を目指して、新しいチームを作っていきます。

応援して下さった本当に多くの方々に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。





## かるた甲子園報告 ver.2

2018.07.30

7/29（日）、今日は個人戦です。

台風の影響での中止も危ぶまれましたが、無事開催されることになりました。

A級は近江神宮勸学館、B級は近江神宮内の保育園、C級は市民文化センター、D級は県立武道館に、それぞれ分かれての試合となります。



前日六試合の熱戦を繰り広げただけに、皆まだ疲れが残っていますが、その中でも高3吉田はB級四位に入賞！

「最後の大会で、個人戦でも結果が残せて良かったです。いい感じで終われました」とのことです。



また、D級では、高1井澤が四位入賞、高1宇都宮は準優勝でC級初段に昇段いたしました！

「大会前に一回調子が落ちて、自分も落ち込んだし皆にすごく心配をかけたけど、お世話になった高3の先輩2人にどうしてもいいところを見せたくて頑張りました。来年もここに来て、やるからには団体戦メンバーの5人に入って戦いたい」と宇都宮は語ってくれました。



この日はたくさんの方から、昨日の団体戦四位の結果にお祝いの言葉をかけていただきました。

また、昨日の試合の様子はニコニコ生放送で中継されており、海城生たちが多く見てくれて、部員たちに激励や祝福のメッセージを送ってくれたそうです。保護者の方も、多数応援に来てくださいました。

本当に多くの方々に支えていただいていることを実感する二日間でした。今後とも海城かるた部の活動を、どうぞよろしくお願い申し上げます。